

青丘文庫研究会 月報

No.279
2015年5月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西部会 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000円
 ※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として 2000円／年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

日韓の海女写真展 伊地知紀子



2013年10月末に、濟州の南西に位置する大坪里の海でムルジルに参加しました。ムルジルとは濟州の言葉で潜水作業を示します。初めてムルジルに参加したのは、1995年2月だったので約18年ぶりでした。当時は北西部の村・杏源里に住んでいたので漁村契長とチャムス会長（濟州の言葉で「海女」）の許可をもらって入ったのですが、南部では今回が初めてでした。やはり、風が最も強いといわれる北西と温暖な南部の海とは波の強さが違います。

麗水で開催された韓国海洋博覧会での仕事で偶然ご一緒したことから、大坪里の漁村契長やチャムスのみなさんと知り合い、海中写真家の古谷千佳子さんとともに潜る機会をいただいたのです。濟州には海女会あるいはチャムス会という潜る本人たちだけの組織がありますが、漁村契は世帯で加入します。女性が漁村契長であるところは多くはなく、大坪里のように10年以上同じ人が長であることはさらに珍しいことです。チャムスの減少や高齢化の問題もありますが、大坪里の漁村契長のバイタリティを見るとさもありなんとも思います。案の上、村に行く前に何度も電話でやりとりしているときに、日本で足ヒレと100円均一ショップで時計を幾つか（実際の数はふせておきます）購入してくるよう依頼されました。日本製の足ヒレは構造がよくできており、時計は海で浮かべてあるテワク（発砲スチロールの浮きの下に取り付けた網に採集物を入れる道具）に付けて作業時間を確認するためということでした。時計は防水ではないので結局最初の目論みどおりにはいきませんでしたが、いちおう任務は達成しました。

ムルジル当日、入ってみて驚いたのは海の汚れです。海上から見ればまだまだきれいな濟州の海ですが、中に入ると海藻は貧弱で岩にわずかに生えている程度です。これでは収穫にひびくので、チャムスたちは作業場の回し方や作業時間を工夫しています。

海岸から近い場所は「ハルマンパダン（おばあさんの海）」とも呼ばれ、高齢のチャムスたちが作業しています。大坪里で最高齢は、このとき81歳のお二人。このお二人の作業の様子を見ようと近づいていくと、海の上でお二人のうち一方が、「こら！！うちの村の人間じゃないだろ！！採ったらダメだ！上がり！上がり！」とものすごく大きな声でまくしたてられました。見てわかるところもすごいのですが、海

に入る前の全員での打ち合わせのときに、日本から来た私たちが紹介され採りにきたのではないと漁村契長が説明したにもかかわらず。作業終了後に海女小屋にもどると、事情を再度説明された先の方が「すまんねー。聞いてなかったよー」と謝りにきてくださいました。こちらこそなのですが、海の上で大きな声を聞くのも久しぶり懐かしいものでした。

こうしたチャムスの水中や陸での最近の姿やかつての様子を、日本の海女の近況とともに写真展にしようと韓昌祐・哲文化財団の助成に応募し、2015年度から2年間助成をいただくことになりました。これから、濟州出身の研究者3名と高正子さん、私、そして海中写真家・古谷千佳子さんというメンバーで対馬からスタートし、三重、濟州、釜山などでフィールドワークおよび撮影を始めていきます。これまで撮影したものも含めて、今年の秋から大阪市生野区コリアタウンを初回地として、神戸学生青年センター、濟州、釜山、三重の海の博物館などで写真展とシンポジウムを企画しています。開催日時など確定したら、またお知らせしますので、みなさまぜひお運びください。

第354回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2014年11月9日）

李承晩政権の在日コリアン国民登録・管理政策研究 関 智景

研究の目的

- 大韓民国(以下、韓国)政府の在日コリアンの韓国籍登録政策は、どのような性格の政策であったのか。

1. 民団と韓国政府の関係形成／在日コリアンの団体結成
 ／ - 11月、朝鮮建国促進青年同盟(以下、建青)結成。／ - 1946年1月、新朝鮮建設同盟(以下、建同)結成。／ - 10日、建同と建青が合同して在日本朝鮮居留民団へと改名。／韓国政府と民団の関係／ - 1948年8月15日、韓国樹立。／ - 朝鮮民団団長である朴烈が韓国政府樹立行事に参加、以後李承晩は、韓国政府が唯一認める日本の民族団体であり、「在日本大韓民国居留民団(以下、民団)」へと変更した。

2. 李承晩政権の在日コリアン国民登録・管理政策の形成／日本の地方事務室設置状況／ - 1948年10月、韓国代表部を日本に設置することに合意。／ - 1949年3月1日、鄭桓範(ジョンファンボム)大使は、韓国連絡代表部を駐日韓国外交代表部へと名称が変更。／ - 1949年3月、鄭はGHQの協力のもと大阪事務所が設置。／ - 鄭は在日コリアン実業家の協力を得て、大阪に次いで、名古屋、神戸、福岡の各地域にも韓国代表部の事務所が開設。／韓国政府と民団の在日コリアン国民登録政策／ - 大韓民国における国籍法制定(1948年12月20日、法律第16号)され、1949年6月に「在外国民登録令」を発令。／ - 8月1日、大韓民国の外務部令第4号在外国民登録令によって、在外国民登録が実施。／ - 11月1日には大韓民国登録のために民団が領事業務の一部を受けて登録事務が開始。／韓国政府の国籍表記要請と登録状況／ - 1950年1月6日、韓国の駐日大使館は日本に「外国人登録証明書交替に関する建議書」を発送し、国籍欄を「朝鮮」ではなく、「大韓民国」に要請。／ - 2月20日、GHQも韓国及び大韓民国と記載することを支持したとある。日本政府は2月23日「韓国」または「大韓民国」を国号として使用することを決定。／ - 1951年、外国人の国籍変更申請は当該国の官憲が発給する国籍証明書さえあれば、日本政府が行うということになった。／ - 全国で553,430名であり、そのうち朝鮮籍での登録者は468,110名、韓国籍は85,320人にと



どまったく。

3. 日韓会談をめぐる在日コリアンの国民登録／韓国政府の在日コリアン国民登録をめぐる法的地位／ - 日韓会談が 1951 年 10 月 20 日に開始することになり、1951 年 9 月の予備会談で俞鎮午(ユジノ)は在日コリアンの国籍表記が韓国は「8 万である」、朝鮮は「50 余万である」と言い成績が良くないと自覚していたことを確認した。／ - 1951 年 10 月 30 日、本格的に第一次日韓会談が開かれ、韓国政府は国籍登録欄に「朝鮮人」と表記するのは共産系の在日コリアンが韓国政府を否定する意思表示となっていると指摘した。／韓国国民登録をめぐる永住権問題／ - 11 月 30 日、日本側は韓国側が「登録証のようなものを発行する計画である」かを聞き、韓国側が「駐日代表部で登録をして証明書を発行」をしているので、登録者に「永住権を認めると、よいのではないか」と、聞いた。／ - 12 月 3 日、韓国側の俞鎮午代表は、在日コリアンが韓国国民として登録されたら、「永住許可が出るようにしてほしい」と日本側に要請し、「登録成績が不良なのは登録をしようがいまいが実効がなかったせいで、今後駐日韓国機関の登録によって居住権が認められるとなると、良好な成績を上げられるはずである」と言及した。日本側もこのような韓国側の意見について、動議の意思であった。

6. おわりに／李承晩政権の在日コリアン国民登録政策の評価／ - 韓国国民として登録されるメリットを在日コリアンが感じていなかった点が大きいが、韓国当局が在日コリアンの現状についてほとんど無知なまま施策を進めようとしたことがこうした結果を生んだといってよい。／ - 韓国側は在日コリアンの法的地位の問題よりも国籍問題、すなわち国民登録成績を伸びる重点をおいていた。したって、当時の李承晩政権が行った在日コリアンの政策の性格は、成果だけ考えて行ったと論じたい。

第355回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2014年12月14日）

朝鮮戦争下神戸における反戦文化運動 —新発見のサークル誌に即して

黒川伊織



近年、1950 年代のサークル運動についての関心が高まっており、本月報にも、宇野田尚哉氏による『ヂンダレ』紹介（231 号）、三宅美千子氏による『信太山』紹介（275 号）が掲載されている。本報告では、神戸在住の詩人・直原弘道氏（1930 年生まれ）が長年大切にされてきた新日本文学会神戸支部のサークル

誌『文学通信』『足音』(ともに1951年発行)と、神戸人民文学友の会のサークル誌『やまなみ』(1951年頃発行)を紹介しつつ、朝鮮戦争の日本国内最前線の地のひとつとなった神戸の街で、左派の日本人と朝鮮人が実行した朝鮮戦争への反戦運動の経験にふれた。なお、朝鮮戦争が最も激しかった1950年から51年にかけて発行されたサークル誌が現存する例はほとんどなく、その意味でも直原氏から提供を受けたサークル誌の史料的価値は、極めて高い。

新日本文学会神戸支部が、川崎造船所をレッド・ページで馘首された金属工中心のサークルであったのに対し、神戸人民文学友の会は、神戸港で荷役労働に従事する自由労働者中心のサークルであった。どちらも、自らが結果的に朝鮮戦争に加担してしまう現実を見据えた詩作を残しているが、なかでも朝鮮人・金海光が残した詩「黒い貨物車が走る—友たちよ何をしている」(『文学通信』3号、1951年7月)は、日本で生産される爆弾が朝鮮に運ばれて多くの朝鮮人を殺戮する現実と、それを止められない日本の反戦運動の無力さを、朝鮮人の側から告発した異色の詩として、同時代の読者の心に重く響いたようだ。

直原氏が大切にされてきたサークル誌の数々は、4月24日(金)より、神戸・王子公園の神戸文学館で開催予定の特別展示「神戸・サークル誌の時代」で、現物を展示することになっている(<http://www.kobe-np.co.jp/info/bungakukan/>)。ぜひ会場に足をお運びいただき、占領下／朝鮮戦争下の神戸の街で、サークルを拠点として粘り強く抵抗を続けた無名の人々の思いを感じ取っていただければ幸いである。

神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー「戦後70年、日韓条約50年」

- ① 「日韓条約から50年—植民地支配・戦争責任は解決済みか」／講師：同志社大学教授 太田修さん／日時：2015年6月18日(木) 18:30／会場：神戸学生青年センター／参加費：800円
- ② 「戦後70年と在日朝鮮人」／講師：京都大学教授 水野直樹さん／日時：7月29日(水) 18:30／会場：神戸学生青年センター／参加費：800円

●青丘文庫研究会のご案内●

■第300回朝鮮近現代史研究会 2015年5月10日(日)午後3時～5時

「近代日本時事漫画で見る韓日関係史」 韓程善

■第358回在日朝鮮人運動史研究会関西部会 2015年5月10日(日)午後1時～3時

「1928年、昭和天皇の即位の「大典」と朝鮮人

—鉄道建設労働者の事故多発から見えてくること— 塚崎昌之

※会場 青丘文庫(神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館3階で身分を証明するものにして入館証を受け取り4階会議室にお越しください。)

※今年の日韓共同在日研究会は、8月8日(土)～9日(日)、神戸学生青年センターで開かれます。

【今後の研究会の予定】来月以降の予定。6月14日、在日(高希麗)、近現代史(未定)、7月12日(日)、在日(未定)、近現代史(伊地知紀子)。研究会は毎月第2日曜日です。報告希望者は、飛田または水野まで。

【月報の巻頭エッセイの予定】 6月号以降は、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。